

特定非営利活動法人 Earth Communication
2025年度 事業計画書

1 事業実施の方針

【 法人全体 】

昨年度に引き続き、業務として新たな依頼や相談をいただいているため、これまで以上に、行政機関や他団体、企業、地域等との連携・協働する取り組みの拡大が予想される。また、拠点を置く『御前崎市』や当法人に対して、求められている取り組みが明確になってきていることもふまえ、昨年度取り組んできた事業や活動を精査し、『NPO法人Earth Communicationだからこそ』というプログラムやパッケージを体制化させることを目指し、継続していくことが可能な取り組みにおいては継続実施し、そうでない事業や活動においては見直しを行い、2025年度も試験的な取り組みやリサーチを継続的に実施する。より良い活動や連携協働基盤を構築していけるよう、体制強化を図るだけでなく、より広く多くの方に活動の周知を図り、関わってくださる会員の方々を増やしていけるよう、各事業に取り組んでいく。

【 自然楽校事業 】

2025年度も引き続き、自主事業である『ネイチャーズ』、『アースキッズ』、『オープンプログラム』に取り組むことで、多くの方が自然や環境に触れ、自然を楽しみ、自然や環境について学ぶ機会の創出を図る。また、2025年度より子どもたちを中心とした『Camp Program』の再開を目指し、準備を行う。

○ **ネイチャーズ**： 昨年度からスタートした年間プログラム『マリンキッズ』は、昨年度の活動時の様子や保護者の方からの意見等をふまえ、半日活動に変更し実施を予定。活動を通して、海への愛着心や海洋環境への意識を育む。定着には時間が必要であると考えられるため、活動を行いながら周知を図り、定着を目指す。また、参加する子どもたちの保護者ともコミュニケーションを図り、次年度の活動に活かせるよう、活動への期待や子どもたちへの想いなどについても情報収集を行う。

○ **アースキッズ**： 久々生海岸での取り組みを中心とした『うみのモリ』プログラムと、田んぼを中心とした里山の自然・環境を活用した『里のめぐみ』プログラムに取り組む。これにより、久々生海岸の海岸環境だけでなく、海をはじめとするさまざまな自然や、「自然・環境・社会」のつながりなどへの、意識と理解を図っていく。

うみのモリプログラムにおいては、昨年度の取り組みに加え、これまで取り組みを行っていなかった冬の活動の充実を図る。2025年度は、12月に久々生海岸の海辺に集まる海鳥を観察する活動、1月に冬のアマモ場の生きものの調査を兼ねた活動に取り組むことで、年間を通じた海辺の活動体制の構築を図り、季節の移り変わりによる海の森の変化やそこに集まる生きものたちの違いなどを体験的に学んでいただけるよう、年間12回の活動を実施予定。

一昨年度からパッケージ化させ取り組んでいる里のめぐみプログラムにおいては、御前崎という地域に対してのニーズは低く、集客に苦戦している状況は変わらない。だが、当法人の目標である『海と里山をつなぐ』自然体験活動や環境学習活動の体制化を目指すためにも、活動の見直しを行い、田んぼを中心とした活動に絞り、まずは「里山の自然」への意識と理解を図る。田んぼでの活動では、田植え・稻刈り・恵みをいただく活動をプログラムとして実施。恵みをいただく活動の際、竹を活用した竹飯ごうに取り組むことで、「自然の循環」への意識と理解を図る。

○ **オープンプログラム**： 昨年度に引き続き、社会や地域の状況の変化によるニーズの変化がうかがえる。そのため、2025年度もニーズの把握を目指し、実施態勢は継続させていく。

○ **Camp Program**： マリンキッズ同様、当法人としては大切にしていきたい活動のため、再開を目指し計画・準備を行う。ただし、昨年度明らかになった「御前崎」という地域の立地的課題解決は難しいため、開催場所も含めしっかり検討を行っていく。

【 未来にのこす事業 】

2025年度も、自然や環境の保全を目的とした『ハチドリaction.』と『結び』、自然の中で活動・活躍する指導者の育成に取り組む『インタークリーター養成』に取り組む。

○ **ハチドリaction.**： 久々生海岸とアマモ場の保全を目指す『里海プロジェクト』と、御前崎市内の竹林整備を行う『里山まもり隊』の活動を継続的に実施。

里海プロジェクトでは『静岡県を代表する環境学習フィールドに』を目標に、海岸の保全活動としてビーチクリーンや海岸陸地の整備を継続的に実施。また、県や国、大学、研究機関の皆さんと連携し、より良い環境が保全されるよう協働し、調査・研究にも取り組み、久々生海岸の現状の分析を図る。これまで連携させていただいている関係団体の皆さまとの連携強化も図ると同時に、新たなつながりや関係づくりにも取り組んでいく。また、2025年度から施行される「生物多様性増進法」に基づく『自然共生サイト』への認証を目指し、申請を行う。同時に過去3年間認証をいただいている「Jブルークレジット」の認証申請についても、申請のための体制を明確にさせ、再申請に取り組む。

里山まもり隊では、これまで活動協力させていただいている正福寺(御前崎市比木地区)の裏山で活動を

継続させていただき、間伐した竹は、アースキッズ 里のめぐみプログラムで竹飯ごうとして。竹を燃やした後の灰は、結びで取り組む田んぼや久々生海岸の海浜樹木のために活用する。他の事業や活動とのつながりを生むことで、海と里山のつながりや自然の循環を観える化をさせていく。

○ 結び： 地域の方からお借りしている田んぼを活用し、2025年度も『田んぼに集まる生きものと共生したお米作り』をテーマに有機で稻作を行い、田植えや稻刈りのプログラムを実施。また、食育の一環として『育てる～いただく』までをプログラム化させるため、アースキッズ活動と連携した竹飯ごうプログラムも実施。一昨年度から整備を進める田んぼ脇の池は、田んぼに集まる生きものたちの生育場となっている。田んぼや池に集まる生きものをより観察しやすい環境にするため、田んぼの畦の再整備を行う。今年度の活動の状況をしっかり分析し、次年度以降の活動につなげていく。

○ インタープリター養成： アウトドアブームとしての流行は下火になっているが、教育や人材育成としての自然体験活動に対する意識の強まりは感じられる。昨年度から日本キャンプ協会の課程認定団体にも登録することができたこともふまえ、2025年度は7月の3連休を活用し、NEALリーダー養成講座とキャンプインストラクター養成講座の同時開催を計画。NEALインストラクター養成講座の開催は行わない予定。

【 むすびつながる事業 】

2025年度も引き続き、さまざまな関係機関の皆さんと連携・協働する『協働Program』への依頼は多くいただいている。また、2024年度から『つどいの広場』の取り組みの一つとして開所した「セミナーハウス」や、昨年度末に開催した「おまえざき まちのなかの水族館」についても、精力的に活動を継続していきたい。『EC LABO.』については、改めて体制を立て直し、活動を行っていきたい。

○ 協働Program： 2025年度も引き続き、御前崎市教育委員会が主催する『御前崎クエスト』、市社会教育課が主催する『海洋体験活動』、市GX推進課が主催する『環境出前講座』についても継続することが決まっている。御前崎クエストについては、大きな変更はなく、2024年度同様の体制で活動を予定している。海洋体験活動や環境出前講座においても、講師として継続。2024年度から関りが始まった公益財団法人B&G財団様との関りについては、2025年度も引き続き、自然体験活動における講師の依頼を受託する予定となっている。2024年度の取り組みの成果もあり、財団本部の皆さんの意識改革が図られ、B&G財団としての原点に立ち返るため、自然体験活動を重要な取り組みとして位置付けていただくことができている。引き続き、協力体制を強化していきたい。その他、4月から開催される大阪・関西万博でのブルーインフラに関するお話をもいただいている状況。まだ確定はしていないが、さまざまな相談をいただいている。さまざまな方々と協働することで、自然体験活動や環境学習活動の役割や大切さを多くの方に広め、多くの地域で・多くの方々に提供されるよう、2025年度もしっかりと活動していきたい。

○ EC LABO.： 法人会員や指導者間のコミュニティとして再認識を図り、法人内での人のつながりも図ることで、指導者の育成や研修プログラムとして改めて取り組みを強化していきたい。

○ つどいの広場： より広く・多くの方が観光感覚で海をはじめとする自然を楽しんでいただき、自然や環境への意識を育むことを目的とした、『おまえざき まちのなかの水族館』を2025年度も開催できるよう助成金等の申請を行う。公益財団法人みなと総合研究所「未来のみなとづくり助成」に申請予定。開催時期は、2024年度開催時に協力して下さった皆さんの意見等も参考にし、決定を行いたい。開催時には、前回の反省を活かし、アンケート回答を得るための対策を講じ、再度、来場してくださる方々にアンケート調査を実施。また、法人会員の増加につなげることができなかったため、改めて、こちらにおいても対策を講じ、法人会員を増やすことができるよう、イベント運営方法を再考していきたい。

法人施設として開所したセミナーハウスにおいては、プログラムの活動場所、講座の会場、法人会員の皆さんの交流スペースなど、法人事業の中心拠点にできるよう周知を図り、正しく活用していきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定期日時	実施予定場所	従事者の予定期人数	受益対象者の範囲及び予定期人数	支出見込額(千円)
自然楽校事業	ネイチャーズ マリンキッズ	通年 毎月1回	久々生海岸 他 御前崎市内	2人	年間合計 延べ80名	100
	アースキッズ	年間15回	久々生海岸 他 御前崎市内	5人	参加希望者 年間合計 延べ 250名	800
	Camp Program	8月	御前崎市及び 静岡県内	3人	参加希望者 合計 10名	200
	オープンプログラム シーカヤック体験等	4月～11月	久々生海岸 他 御前崎市内	2人	参加希望者 年間合計20名	30
未来にのこす 事業	ハチドリaction. 里海プロジェクト	通年 毎月3～4回	久々生海岸	5人	保全協力者 約350名	20
	ハチドリaction. 里山まもり隊	通年5回	御前崎市内の 竹林	2人	竹林関係者	5
	結び 休耕田を活用した稲作	4月～翌年2月	御前崎市内の 田んぼ	3人	参加希望約20名 と田んぼ関係者	20
	インタークリー養成	年1回	セミナーハウス	2人	参加希望者 約10名	100
むすびつながる 事業	協働Program 御前崎クエスト ファミリープログラム	偶数月 隔月1回	御前崎市内	3人	市内在住者 約8家族	500
	協働Program 御前崎クエスト キッズプログラム	年間6回 5, 7, 9, 10, 12, 2月	御前崎市内	3人	市内在住者 約40人	640
	協働Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	通年 毎月1回	御前崎市内	3人	市内児童 約30人	2, 200
	協働Program 御前崎クエスト グローカルプログラム	通年 毎月3回	御前崎市内	2人	市内在住者 約10名	1, 500
	協働Program 御前崎クエスト ユースプログラム	奇数月 隔月1回	御前崎市内	2人	市内在住者 約20人	450
	協働Program 御前崎 環境出前講座	市内小学校 5校 各校1回	市内小学校 5校	2人	対象小学校・ 学年の児童	150
	協働Program 海洋体験活動講師・指導	市内小学校 5校 各校1回	市内小学校、 御前崎市内の海	2人	対象小学校 在校生	200
	協働Program B&G全国指導者研修	年間3回程度	B&G全国指導 者会の業務に 応じる	1人	B&Gに所属する 全国の指導者	150
	Member's Camp	11月	御前崎市内	2人	法人会員 10名	50
	おまえざき まちのなかの水族館	調整中	御前崎市内	5人	不特定多数	450
	EC LABO.	毎月1回	御前崎市内	2人	法人会員及び 法人指導者	20
	ホームページやSNSの 管理運営	隨時	法人事務所	2人	不特定多数	20

- * 1 設立（合併）の初年度と翌年度について、それぞれ別葉で作成する。
- 2 初年度分は、申請予定日からおおむね4か月後以降について作成する。
- 3 2事業の実施に関する事項については、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
- 4 2(1)の受益対象者の範囲及び予定人数は、具体的に記載する。
- 5 2(2)は、その他の事業を行わない場合には記載不要。
- 6 定款に掲載している事業で、計画書に掲載しないものについては、その理由を記載する。